

統一したノーリフティングケアに向けた 取り組み ～スタッフの意欲の変化～

介護老人保健施設 翡翠苑

施設概要

入所定員100床 在宅復帰超強化型施設

介護職の概要

■年齢	45.1±8.95歳
■性別(男性:女性)	3:7
■経験年数	16.9±9.09年
■コルセットあり	23%
■鎮痛薬使用	18%
■腰痛あり	84%

ノーリフティングケア普及促進事業に 参加までの経緯

- ▶ 令和4年12月 事故防止委員会で **表皮剥離** が多いことについて話し合われた。
- ▶ 令和4年12月 ノーリフティングケアへの取り組みが開始。
取組施設を見学。
- ▶ 令和5年10月 ノーリフティングケア委員会 発足。

↓
委員会を立ち上げたがどのように普及
させていくべきかわからない状態であった。

- ▶ 令和6年4月 「福岡県ノーリフティングケア普及促進
事業」への参加
同時に「北九州モデル事業」へも参加

ノーリフティングケア導入に 立ちはだかる問題

- ▶ **ベテラン**職員が多い。
- ▶ 従来の**ケア**が**固定**されている。
- ▶ **スピード**重視のケアから抜け出せない。
- ▶ 人員不足で**時間**が取れない。
- ▶ **福祉用具**がない。

結果①

1. 事業に参加して導入された福祉用具

●スライディングボード	1枚 ⇒ 4枚
●床走行リフト	0台 ⇒ 2台
●跳ね上げ式車椅子	10台 ⇒ 14台
●リクライニング型車椅子	12台 ⇒ 14台
●スライディングシート	0枚 ⇒ 2枚
●グローブ(ディスポ)	0枚 ⇒ 50枚

2. 普及状況 (現場状況・介助技術の変化)

- ベッドの高さ調整をしながらオムツ交換・シーツ交換**
20% ⇒ 80%
- スライディングボード** 移乗
0% ⇒ 90%
- リフト** 移乗
0% ⇒ 30%

結果②

1. 移乗時の表皮剥離

令和5年度 10件
令和6年度 5件 (現在進行中)

現時点では50%減少

2. 腰痛調査

- ① 腰痛の程度 変化なし：平均5.86点 ⇒ 5.90点
(p-value0.958)
- ② コルセット・内服の有無 変化なし
- ③ 腰痛予防意識 向上：平均49.7% ⇒ 56.6%
(p-value0.017)

結果③

スタッフの意欲の変化

4月と現在でノーリフティングケア
に取り組みたいという意欲の変化

向上した人は全体の **38.3%**

低下した人は全体の **8.3%**

まとめ・反省

- ▶ 移乗に関する福祉用具はある程度活用できているが、**背抜きが不十分**。
- ▶ ベッドの高さ調整とスライディングボードは普及したが、リフトは不十分であった。
- ▶ ノーリフティングケアを実践することで移乗時の表皮剥離が減った。
- ▶ 腰痛の程度に変化はなかったが、腰痛予防に対する意識の向上がみられた。
- ▶ ノーリフティングケアに取り組む意欲が向上した。

今後の課題・目標

- ▶ **背抜き**を行うため技術指導を徹底。
- ▶ リフトの普及を促進するために北九州モデルで生まれたゆとりを活用。
- ▶ 意欲が低下したスタッフの分析を進め普及を促進する。